年間授業計画

杉並総合 高等学校 令和４年度（１学年用） 教科　芸術　科目 書道Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　１組 ～　６組

使用教科書：（ 書道Ⅰ／東京書籍 ）

教科　芸術　の目標：

【知識及び技能】芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高めることを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術に幅広くかかわる資質・能力を育成することを目指す。

【学びに向かう力、人間性等】芸術を生涯にわたって愛好する心情をそだて、豊かな情操を養う。

科目　書道Ⅰ　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解し、書写能力の向上を図り、効果的に表現する為の技能を身につける。	書美を感受し創作意図に基づき工夫し、書作品や書道 文化の意味や価値を考え書美の味わいをとらえることが出来るようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり 書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会の創造を目指す。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	・基本的な姿勢、執筆法を身に着ける。 ・用具、用材を的確に用いる。 ・国語科書写と芸術科書道関係を理解する。	①書と文化。書、周辺文化の歴史の学習。書論・書道史 ②漢字の書 １楷書古典臨書		○		○	・基本的な姿勢、執筆法を身に着けようと工夫している。 ・芸術としての書に関心を持ち様々な書表現を理解している。	○	○	○	6
	・書道表現と鑑賞の幅広い活動を通じ書を愛好する心情を育てる。 ・多様な書風の古典にふれることにより、表現方法を学び技術を高め創作に生かす。	②漢字の書 ２行書古典臨書 ②漢字の書 ３草書古典臨書		○		○	・字形や用筆の特徴を理解し表現技法を理解している。 ・古典の書美と表現技法を理解している。	○	○	○	10
	・隷書・篆書の特徴を理解し表現できるように、工夫している。 ・各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ、書風を生かした表現をする。	②漢字の書 ４隷書・篆書古典臨書 ②漢字の書 ５漢字創作 学期末考査		○		○	・隷書の特徴や木簡についてしり、その現代的な意義を理解している。 ・篆書の特徴をつかみ、歴史的意義を理解している。 ・定期考査	○	○	○	10
2学期	・書に親しむ活動を通じ、感性を高め書道の基礎的な能力を伸ばす。 ・篆刻の準備と手順について理解し、姓名印を刻すことができる。 ・落款と落款印の意味とその役割について理解している。	②漢字の書 ６篆刻 ③漢字かな交じりの書 １鑑賞 ③漢字かな交じりの書 ２古典学習・構成	○	○		○	・篆書の特徴を生かして草稿、印稿、運刀ができるように工夫している。 ・篆刻の準備と手順について理解し、姓名印を刻すことができる。 ・書道学習で身に着けた事を鑑賞に生かし、暮らしの中に書を生かす工夫をしている。	○	○	○	12
	・身近にある題材を素材とし線質や構成を工夫し名筆に基づいた表現をする。 ・名筆が書かれた背景や作者について理解しその作品や創造的に鑑賞する。	③漢字かな交じりの書 ３漢字かな交じりの書の創作 ③漢字かな交じりの書 ４実用書 学期末考査	○			○	・自分の中にある作品イメージに表現を近づけ、 紙面構成や文字の造形などを様々に工夫して表現することが出来る。 ・古典に学び漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書く事が出来る。 ・定期考査 ・用具、用材の特徴を生かし様々な表現を試みる事が出来る。	○	○	○	12
3学期	・書への関心を高め書の伝統文化への理解を深める。 ・仮名の基本用筆において、用紙へのあたりや回転のリズムに注意しながら書く。 ・仮名古典特徴を生かして創作する。	④仮名の書 １仮名・変体仮名単体 ④仮名の書 ２仮名古典臨書　行書き ④仮名の書 ３仮名古典臨書　散らし書き			○	○	・流麗な線筆による連綿の美しさと仮名の書独特の表現法である散らし書きなどの技法を身に着けている。 ・古筆を鑑賞し、その美しさを感じとろうとしている。 ・行書き、散らし書きの古筆に関心を持ち、その良さを感じとろうとしている。	○	○	○	10
	・仮名の技法を習得し、それらが日本の伝統に立脚していることを理解する。 ・仮名の書の創作手順を踏み、自分らしい表現をする。 ・平安朝の仮名古筆を参考に行の長短や高低、行間、紙面構成を表現することが出来る。 ・身近な暮らしの中の書の実用形式を踏まえ、適切に書く事を目指す。	④仮名の書 ４仮名創作 ⑤暮らしの中の書	○		○	○	・仮名の書の創作の準備と手順を理解し表現することができる。 ・仮名の書の創作の表現の構想から完成に向けて意欲的に取り組んでいる。 ・身近な暮らしの中の書の実用形式を踏まえ、適切に書くようにしている。 ・定期考査	○	○	○	10 合計 70